



若者 × 情熱

ミハラのチカラ

STORY 16

デフバレーで世界の頂点をめざす

医師 狩野拓也さん
かのうたくや

2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関心が高まる中、もう一つのオリンピックが今月18日からトルコで開催されます。耳の不自由な人たちによるスポーツの祭典デフリンピック。そのデフバレーボール競技に狩野拓也さんが日本代表チームのメンバーとして出場します。

デフバレーとは耳の不自由な人で競技するバレー。コートやルールなどは一般のバレーと同じですが、試合中に補聴器は装着できません。

生まれつき両耳の聴力が弱く、補聴器を着けている狩野さん。中学生の時にバレーを始めました。「仲間の合図の音が聴き取れない」などの苦労も



▶高いジャンプ力を生かし、巧みにボールを打ち分けます

あったようですが、ボールを高い打点から打ち込めるジャンプ力と広角に打ち分けられる技術力を武器に逆境を跳ね返し、アタッカーとして活躍。



進学した高知県の大学のバレー部に所属している時には高知県選抜チームのメンバーとして国民体育大会への出場も果たしました。

この活躍はデフバレー男子日本代表の監督の目に留まり、大学4年生の時に合宿に参加。日本代表の座を獲得し、チームの主将にも抜擢されました。デフバレーは「アイコンタクトや身振り」で意思の疎通を図らなければならないのが難しさであり、魅力でもある」と狩野さんは言います。

バレーに取り組む一方で、勉学に励み、大学は医学部に進学。「障害のある人は支えてもらってばかりというイメージ

から、人の命を助けられる医師になって恩返ししがたかった」とその理由を話します。在学中は13時間の実習の後、練習という日々もありましたが、「どちら自分が見たいことをしていたので大変だとは思わなかった」と笑顔で振り返ります。

これらの努力が実を結び、今年3月、デフリンピックへの出場権と医師国家資格の合格を手に入れました。現在は市内の病院で研修医として現場に立ちながら、大会に向けて練習している狩野さん。「デフリンピックで結果を残したい」と世界の頂点をめざします。

※このコーナーでは、スポーツや文化・芸術活動などに情熱を注ぐ若者や子どもたちを紹介します。

源流の里

もりひらやすのり

撮影者 森平康則さん

撮影エピソード

大和町から福山市までを流れる芦田川。その源流が大和町蔵宗にあります。静かな山の中で、心がすがすがしくなります。



●撮影年月 平成29年4月
●撮影場所 大和町蔵宗



写真・絵を募集しています

テーマ

～あなたが残したい三原の風景～

応募資格 市内在住・在勤・在学の人

選考 総務広報課で選考

※応募作品の著作権は市に帰属し、市の公式フェイスブックで紹介させていただく場合があります。

※応募作品は返却しません。

申し込み 郵送またはEメールで写真(L判・データ)か絵(大きさは画用紙A3サイズまで)と①名前②住所・電話番号③撮影・制作日④撮影・題材場所⑤作品名⑥作品エピソード(70字以内)を総務広報課(〒723-8601港町三丁目5番1号 ☎0848-67-6007 somukoho@city.mihara.hiroshima.jp)へ